

## 会員や働いているスタッフの気持ち

東京都医師会 会長 尾崎治夫

感染症法等の改正により、発熱外来と病床確保に関する締結について、国からの協議の要請が、医師会員にきている最中、財務省からの衝撃的な発表がありました。

### 傷ついた会員の心

協定、早く協定を結んで欲しいと言ってきている向こうで、開業医は儲けすぎて、国は何を考えているのでしょうか？

コロナの3年間、開業医が遊んで儲けていたとでも思っているのでしょうか。

皆、睡眠を削って、疲労困憊の中、診察を続ける中、HER-SYSにも入力していたのに…看護師、事務員、スタッフ、皆一体になって発熱患者さんを診ていたのです。

結果、日本のコロナによる死者は、高齢化が最も進んだ国にも関わらず、欧米に比べはるかに少ない…

当時、国は、わたしたちの努力に報いたいとの思いがあって、補助金をいただけたものと…頂いた補助金は、さらなる感染症対策と、必要とされるスタッフの増員などで、増えた収入はすぐなくなり、翌年には税金も上乘せされ、ほぼ収支は元に戻ってしまいました。

それなのに、コロナで十分儲けたはずだから、物価高に伴う従業員の給料上乘せはそこから出せる筈、よって診療所の診療報酬はあげる必要なく、むしろ下げるべき。

怒りを乗り越えて、皆、とても悲しくなりました。

私たちは、財務省の奴隷なのでしょうか

「やってみせ 言って聞かせて させてみせ ほめてやらねば 人は動かじ」

(山本 五十六の名言より)